

女学生の声



徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
助教 上手 洋子 先生

上手先生は、阿南高専卒業後、徳島大学へ編入学され、同大学の博士後期課程を修了されました。スイスへの留学を経て、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部・助教に着任されました。

・高専に進学した理由

小さい頃から工作が大好きで、友達とミニ四駆やプラモデルを作って遊んだりしていました。小学校の夏休みの自由研究では、モーターで自動回転する消しゴムを作成し、電気の楽しさを知るきっかけになりました。また、中学校の英語の先生が、ブルーカラー（現業系や技能系の職種：エンジニア）とホワイトカラー（主に事務に従事する人々を指す職種：サラリーマン）の説明をしてくれたときに、スーツを着てデスクワークするサラリーマンより、作業着で油まみれになって、創意工夫しながら新しい技術や製品を開発するエンジニアのほうがカッコいいし、自分には合ってると思いました。それで、高専進学時に、電気工学科を選択しました。

・高専在学中の思い出

高専在学中は、自分がこれからどんな道（職

業）へ向かっていくのかを決めたかったので、いろんなことにチャレンジしました。3年生でロボットコンテスト、4年生でプログラミングコンテストに出場しました。プログラミングコンテストの経験が今の職業（大学教員）になるきっかけとなりました。また5年間テニス部に所属し、県大会や高専大会に向けて練習に励みました。テニス部では、体育会系なところもあったので先生や先輩など目上の人への礼儀なども学ぶことができました。さらに、女子硬式野球部や徳島文化交流会などのサークルを立ち上げました。このようなサークル活動を通じて最高の仲間と出会うことができました。また、待っていても何も変わらないが、自ら動けば道は開けるということを学びました。

・後輩へのメッセージ

高専時代は、みんなの人生においてとても

重要な時期だと思います。まさに人生の分岐点！これからどの道に行くのかはみんな次第です。周りに流されてしまう人も多いと思いますが、しっかりとした信念を持って突き進んで欲しいです。また、学校の勉強はもちろんですが、クラブ活動や学校行事のイベントなどにも積極的に参加して、人生の経験値を上げることも大切だと思います。夏休みなどを利用して海外旅行に行くのもいい経験になると思います。高専生の若さとエネルギーを武器に、臆することなくいろんなことにチャレンジして欲しいと思います。

・女子中学生へのメッセージ

理系を選ぶ女性は少ないと思われがちですが、研究会や国際会議の参加者をみると以前より女性の研究者・教員の方が増えてきているように思います。特に電気電子の分野では生体情報工学など、女性の感性が重要とされているテーマが近年注目されています。また、これからは女性の人もどんどん社会に出て活躍できる時代になってくるので、みなさんが得意な分野でおいに力を発揮して欲しいです。

・現在の仕事を選んだ理由

☆職業：大学教員（徳島大学 大学院 ソシオテクノサイエンス研究部）

高専 5 年生の卒業研究を通じて研究の楽しさを知り、ずっと研究を続けたいと思うようになりました。企業などでの研究職か大学教員になるかではかなり悩みましたが、やはり自分のやりたい研究をとことん追求することができる大学教員を選びました。また、多くの学生を研究・教育指導して社会に送り出すことができる点も現在の仕事

を選んだ大きな要因です。

・現在の仕事の内容

大学での講義、学科の業務、学部学生の教育指導、研究室学生の教育・研究指導、自分の研究、学会業務など様々な仕事内容があります。これらの業務を自分で管理して遂行していく必要があります。どれも、いろんなスキルを必要とする責任ある仕事なので大変ですが、やり遂げたときの達成感は最高です。

・現在の仕事のおもしろい点

研究の一番の醍醐味は、まだ世界で誰もやっていないことを追及できることです。さらに、研究にはゴールがないことも私にとっては大きな魅力です。一生現役で走り続けたいと思っています。教育面では、ひとりひとり個性も性格も違う学生をいかに成長させていくかについて毎日奮闘しています。自分の考えや想いを学生に伝えることは難しいですが、学生が自らやる気になってくれたり、何かの夢を見つけたり、日々成長していく姿を見られることは幸せだと思います。